



### 竜北の特産「もち米」の稲刈り

10月27日に4・5・6年生が、保護者の方々のご協力のもと、稲刈りを行いました。この日は、少し寒かったのですが、よく晴れた日でした。

7月1日に田植えをしたもち米の苗は、豊かな水と太陽の光をたっぷり浴び、5年生が立てた案山子(かかし)に見守られながら、すくすくと育ち、たくさんの稲穂をつけていました。

5・6年生は、昨年度も稲刈りの経験があるので、手際よく刈っていました。4年生にとっては、学校での稲刈りは初めてでしたが、家庭で経験のある子ども達も多く、なかなか上手な仕事ぶりでした。

採れたもち米は、今後「餅つき」等で、地域の方とともにみんなで味わう予定です。

この体験学習ができたのも、田んぼを提供し、管理してくださった地域の方、田植えや稲刈りでお手伝いをしてくださった保護者の皆さまのおかげです。大変感謝しています。



▲たわわに実った稲穂を手作業で刈りました

わたしたちは、バケツ苗を失敗したので、田んぼは大丈夫か心配でしたが、田んぼの稲は黄色に輝いていました。

稲を刈り始めると、とても大変でした。稲を鎌で刈り取るには大変な力があるし、脱穀するときは、お米が穂に残らないようにきれいに取らなければいけなくて、かなり難しかったです。

毎日、ふつうに食べているお米も、こんなに苦労して作っていることを知りました。それに、昔は、田植機やコンバインなどの機械はなく、田植えから稲刈りまで、すべて手作業だったと思うと、本当に大変だったんだろうと思いました。

だから、これからも、農家の方々が苦労して作られたお米を、無駄にしないように、残さず食べたいと思いました。

(5年 宇田 彩香)

### 頼りになる竜西小パパ軍団“おやじの会”

10月2日、本校の“おやじの会”が「本校の子どもたちのために！」と一肌脱いでくださいました。

本年度の作業は、プール横の溝掃除と、花壇の整備でした。学校の児童や職員だけではなかなかできない、大変な作業だったのですが、お父さん方は、耕耘機、ユンボ、トラック等の機械も使って、あっという間にきれいにしてくださいました。

お父さん方のおかげで、プール横の泥でふさがれた溝も、木の根っこがはびこっていた花壇も、ものの見事に美しくなりました。ありがとうございました。

この日に整備していただいた県道側の花壇には、11月2日に5・6年生と老人会のみなさんでかわいいパンジーやチューリップを植えました。



▲いつもありがとうございます



▲綺麗な花でいっぱい

## 『税についての作文』で入選

第44回中学生の『税についての作文』(全国納税貯蓄組合連合会、国税庁主催)で氷川中学校の阿部さん(町)、野田さん(西上宮)が入選されました。氷川中学校では、例年租税教室を行われており、今回入選されたお二人の作品を紹介いたします。

○南九州税理士会八代支部長賞  
『税』何々



氷川中学校  
三年 阿部優子

私は今まで「税」について考えてみようと言われても、消費税という言葉しか浮んできませんでした。しかも、その消費税がどういった役割を果たしているのかも知らず、品物の値段が高くなるから消費税なんていらなそうと思っていました。しかし、この間あった租税教室で、消費税は何のためにあるのか、どのように使われているかなどを詳しく学び、消費税なんていらなそうと思っていたことが、とても甘い考えだったなあと考えさせられました。

まず、税金がないと、私たちは義務教育を受けることができません。それに、教科書も無償でもらうことができません。私は小学生のころ、教科書に落書きをしていました。あの時は、無償にされている意味が分からず、ただでもらうのが当たり前だと思っていました。でも、今考えてみると、教科書を作ってく

る大人の私たちの気持ちも税も無駄にしている、本当に恥ずかしい反省の気持ちでいっぱいです。

ほかに税金は、町の公園などの施設や民生費、衛生費、消防費などたくさんのお金がかかる、町中ごみだらけ、道路は整備されずガタガタでもとても危険、警察もいないので、万引きや殺人などの犯罪が起こるなど、少し考えただけでも町中がボロボロになりとても恐ろしい世界になることが分かります。

このように、私たちの生活は税がないと成り立つことができません。今後は、少子高齢化の時代で、税金を払う人が少なくなっていく傾向にあると思います。税金の無駄遣いをなくし、ちゃんと必要な所に必要なだけの税金が使われるようになればいいなと思います。

私は、今回租税教室で、税金についてしっかりと学べてよかったと思います。私もあと五年たてば、税金を払う立場になります。定められた金額をきちんと納めることも大切なことですが、ただ税金を納めるだけでなく、税金の使われ方などに関心を持ちながら納めていきたいと思っています。



氷川中学校  
三年 野田春菜

○社団法人八代地方法人会会長賞  
『税に対する考え方』

いろいろな税に興味を持ち、税の大切さを常に考えながら、納税の義務を果たしていきたいと思っています。

私の小さい頃の思い出の中に、税に関するこんな思い出があります。

その日、私はあるお店に買い物にきました。私はお菓子を手に取り、レジへ向かいました。並んでいる途中、私はお菓子の書いてあった金額を取り出して、すぐに買えるように準備をしていました。私の番がきて、お菓子を店員さんに渡し、お金を置きました。ところが店員さんは、準備しておいた金額より高い金額を言ったのです。私は驚き、とても不安になりました。私は驚き、とても不安になりました。私は驚き、とても不安になりました。私は驚き、とても不安になりました。

家に帰り、さっきの出来事を母に話すと、当り前よと言いたげな顔で、「消費税があるからそうなのよ」と、言いました。当時、私は小さくて消費税なんてわかるはずがありませんでした。でも、消費税とかいうもののせいで、お菓子の値段が高くなるなら消費税なんていらなそうと思いました。

それから少し成長し、消費税があることには慣れてしまっていました。でも、何のために消費税を払わなければならない

いのか、その理由は分からないままでした。だからその頃私はまだ消費税なんていらなそう思っていました。消費税がなくなれば、日本中の人々が喜ぶのになんか思っていたのです。

そして、中学生になり、授業で税のことを勉強しました。私が今ですっきりしないと思っていた消費税のことについて、初めて知ることが多くありました。

まず、税がなくなると学校に行けなくなるかもしれないことです。教科書が無償ではなくなり、お金を出して買わなければならなくなります。そのため、学校に通うにはたくさんのお金を払わなければならないかもしれません。そうすると、学校に行けない人が出てくるかもしれません。

あと、税がなくなると工事ができなくなり、道がガタガタになって通りにくくなってしまいます。ケガをしてしまってもしれません。もし、火事や事故が起きても税がなくなると、消防車も救急車も呼ぶことができなくなってしまうのです。そうなる大変です。

このことを学んで、税はとても大切なものなんだと理解することが出来ました。それと同時に、私も払っている消費税がみんなのために使われているということを知って嬉しくなりました。

この授業を受けて、私の税に対する考え方がガラリと変わりました。税がなくなると大変なことになってしまつと分かった今、税なんていらなそうと思つことはなくなりました。これから税は大切なもの、税がなくなると大変なことになるといふことをしっかり理解して、毎日を送っていきたく思います。